

産業廃棄物処理業

経営塾

平成27年度 第12期生 募集要項



自分の使命に、夢と誇りを。



公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団

開塾のごあいさつ



産業廃棄物処理業経営塾 塾長
公立鳥取環境大学 客員教授

田中 勝

世界では膨大（2010年度には約150億トン）な廃棄物が毎年排出されていますが、その多くはまだきちんと収集もされていませんし、適正な処理がされていません。廃棄物が地球を破壊しているのです。地球にある限られた資源が、私たちの豊かな生活や経済活動を支えています。その過程で多くの産業廃棄物が排出されています。私たちの豊かな生活を維持しながら、資源を大切に社会、環境を大切に社会、すなわち循環型社会（3R社会）の構築には、廃棄物の戦略的なマネジメントが重要な鍵を握っているのです。

四年前に東日本大震災、津波、それらが引き金になり引き起こした福島第一原子力発電所の事故など、今まで世界の何処も経験しなかったような、大変困難な問題に私たちは直面しました。この教訓を踏まえ、巨大地震など大規模災害発生時に、大量発生災害廃棄物の円滑な処理を実現するための処理体制が検討されています。その様な時の災害廃棄物の迅速な処理のために、産業廃棄物処理業の皆さんの協力が不可欠であり、日本の復興のために力を発揮してほしいと思います。

経営塾では産業廃棄物処理業界に『読み、書き、そろばん』の出来る、実力のある経営者を育てることが出来ればと願っています。「読む」という意味には、文字に書いた文章を日本語であろうが外国語であろうが読めるということもありますが、先を読む力、人の話の本質を読む力も含まれています。物を作れば、それらは必ずいずれ廃棄物になるので、製造者は廃棄物になった後のことを考えて、物の設計や素材の選定をすることが求められています。

Design for Environmentと言います。先を読むこと、これが廃棄物学の基礎です。次に「書く」ですが、会議の議事録を執ったり、挨拶文を書くことも重要ですが、企業の将来ビジョンを描き、それを達成するシナリオを「書く」ことが経営者にとっては重要なのです。「そろばん」は、どのような選択をすれば自分にとって得になるかを判断する能力です。会社にとって、社会にとって、日本にとって、今や地球にとって得なことを判断し、経済的な側面だけでなく社会倫理面など社会の信頼を向上する上でのプラスになるかどうかの判断が出来ることがますます重要になると思われます。このように人間力を高める「読み、書き、そろばん」の能力を高めていただきたいと思います。

日本の産業廃棄物処理技術は、世界に誇る高いものを持っています。目を国内だけでなく国外に向けると、世界にはまだまだ日本の経験や技術を必要とする国がたくさんあり、またそのような経験やノウハウを蓄積していかなければなりません。世界を視野に入れ、海外に進出できる実力を身につけていただきたいと思います。

どうか皆さんが、産業廃棄物処理業の経営に係わり、地球を磨く掃除人であり、地球の病気を治療するお医者として地球健康の名医になっていただきたいと思います。私たちはこのように重要な産業廃棄物処理業に係われることを誇り（Pride）に思い、3R社会の構築を夢（Dream）見て又、廃棄物の処理は自分たちの使命（Mission）だと思う、PDMを常に心に抱けるように経営塾で学んで欲しいと思います。

産業廃棄物処理業経営塾 組織

塾長

公立鳥取環境大学 客員教授

田中 勝

副塾長

(株)エックス都市研究所 取締役特別顧問

青山俊介

事務局

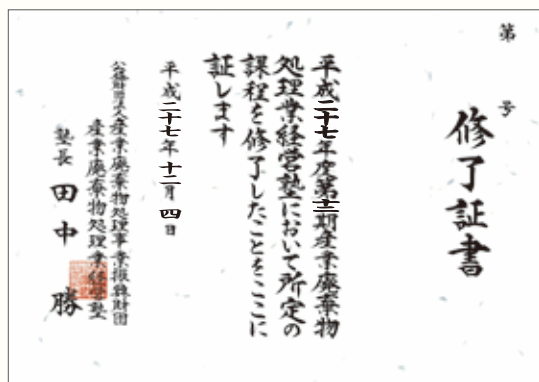
- 名 称 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
- 設 立 平成4年 12月3日 財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
平成24年 4月1日 公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団
(公益財団法人移行認定)
- 指 定 産業廃棄物の処理に係る特定施設の整備の促進に関する法律第16条に基づく厚生大臣指定法人(平成4年12月24日:厚生省収生衛第1073号)、廃棄物の処理及び清掃に関する法律第13条の12に基づく産業廃棄物適正処理推進センターとしての厚生大臣指定法人(平成10年7月1日:厚生省収生衛第879号)

「産業廃棄物処理業経営塾」に入塾すると…

信用力のある修了証書

卒塾生には、「産業廃棄物処理業経営塾」修了証書を塾長名で授与いたします。

この修了証書が優良な産業廃棄物処理業の経営責任者として評価され、施設建設や事業運営に際しての信用力としても活用されるよう、他に類例のないカリキュラム、講師陣によって塾運営を行います。また、その信用力を担保するために、入塾資格を厳しく審査すると共に、個別に卒塾面談を行い、卒塾生の資質を高めるよう配慮いたします。



ネット広場による講義のフォローアップとネットワークの強化

入塾と同時に、ソーシャルネットワーキングサイト(SNS)「ネット広場」に入会できます。この「ネット広場」に講義のほとんどを公開しています。また同期生や卒塾生と在塾期を越えて交流できるほか、当財団からのお知らせや国の動向を受け取ることができます。

- 講義の公開
- 事務局からの情報発信(受講の案内、国の動向、イベントの広報)
- 塾生・卒塾生同士の情報交換・意見交換の場



日程及びカリキュラム

開催日時	カリキュラム
6/4 木 時間 開塾式 15:00 ~ 開塾懇親会 17:30 ~	産業廃棄物 処理事業概論
6/18 木 時間 10:30 ~ 16:10	産業廃棄物にかかる 法制度・行政
7/2 木 時間 10:30 ~ 16:10	産業界・排出事業者
7/16 木 17 金 時間 16日 13:00 集合 17日 17:00 解散	夏季合宿研修
8/6 木 時間 10:30 ~ 16:10	コンプライアンス
8/27 木 時間 10:30 ~ 16:10	産業廃棄物処理業の 経営Ⅰ
9/10 木 時間 10:30 ~ 16:10	産業廃棄物処理業の 経営Ⅱ
9/11 金	施設見学
10/1 木 時間 10:30 ~ 16:10	廃棄物技術
10/2 金 時間 10:30 ~ 16:10	施設計画・財務
10/22 木 23 金 時間 22日 12:45 集合 23日 17:00 解散	秋季合宿研修
11/5 木 時間 10:30 ~ 17:30	ワークショップ
11/19 木 時間 10:30 ~ 16:10	処理業経営者に 期待すること
卒塾レポート 提出	卒塾面談 (塾長・副塾長)
12/4 金 時間 16:00 ~ 17:00	卒 塾 式

6月4日 木

開塾式 15:00～
開塾懇親会 17:30～

1 産業廃棄物処理事業概論

開塾最初の講義として、経営塾の講義の全体構成、卒塾資格条件などの説明。産業廃棄物処理業展開状況や制度・国際的な動向を鳥瞰すると共に、産業廃棄物処理の経営／優良処理業者育成などの今日の潮流を講義。



担当講師

田中 勝 〈塾長・公立鳥取環境大学 客員教授〉

64年京都大学工学部衛生工学科卒業。70年米国ウェインステイト大学助教授に就任、76年厚生省に入省、92年国立公衆衛生院廃棄物工学部長、00年岡山大学環境理工学部教授、08年鳥取環境大学サステナビリティ研究所長、15年同大学退職、現在に至る。有害・医療廃棄物研究会会長、UNEP世界水銀パートナーシップの廃棄物管理分野のリードを務める。



担当講師

青山 俊介 〈副塾長・(株)エックス都市研究所 取締役特別顧問〉

72年東京大学大学院工学系都市工学科修了。82年(株)エックス都市研究所代表取締役就任、06年同社取締役特別顧問、(株)環境構想研究所代表取締役、現在に至る。(公社)土木学会地球環境委員会委員長、愛知博覧会政府出展事業環境担当ディレクター、廃棄物学会理事、(社)海外環境協力センター運営委員長、杉並区環境清掃審議会会長などを歴任。主な現職は、(一社)日本有機資源協会副会長、(社)日本プロジェクト産業協議会理事・環境委員長など。



6月18日 木

2 産業廃棄物にかかる法制度・行政

1 限目講義
10:30～11:50

産業廃棄物処理行政の現状と今後の展望について

我が国の産業廃棄物行政の担当部署の責任者から、廃棄物処理行政の現状と課題を中心に、PCB処理、水銀条約対応としての水銀廃棄物の適正処理、循環型社会の構築に向けた産業廃棄物処理業の振興、アジア地域における循環資源の越境移動への対応等について、産業廃棄物処理業の現状と関連づけて講義。

担当講師

角倉 一郎 〈環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課長〉

平成3年4月、環境庁（現環境省）採用。環境庁海洋汚染・廃棄物対策室、環境省廃棄物・リサイクル対策部企画課、同部浄化槽推進室長、環境大臣秘書官、内閣官房内閣参事官などを経て、昨年9月より現職。

2 限目講義
13:10～14:30

優良化推進事業とその周辺

優良性評価制度や優良産廃処理業者認定制度について検討してきた優良化推進委員会にて委員長を務められた同氏より、制度の考え方、優良化の現在までの状況と今後の方向性、さらに産業廃棄物法制の展望についての講義。

担当講師

北村 喜宣 〈上智大学法科大学院 院長〉

現在の研究課題は、排出者責任のあり方の研究、景観まちづくり法制の研究、地方分権時代の法制度の研究。著書：「自治体環境行政法」（第一法規）、「環境法」（弘文堂）、「産業廃棄物法改革の到達点」（グリーンシッシュ・ビレッジ）等多数。

3 限目講義
14:50～16:10

地方における廃棄物行政

一層信頼される処理業者を目指して、現場の事例を踏まえたコンプライアンスに関する講義。

担当講師

是永 剛 〈長野県環境部水大気環境課 大気保全係長〉

91年長野県職員拝命。91年県出先機関で産業廃棄物担当。95年県庁公害課でダイオキシン類対策、大気汚染防止担当。02年県庁廃棄物対策課で産業廃棄物、紛争担当。06年県出先機関で産業廃棄物担当。08年県庁廃棄物対策課で産業廃棄物、紛争担当。11年県出先機関の松本地方事務所環境課廃棄物対策係長 産廃監視指導に奮闘、14年県庁水大気環境課で大気保全担当（主に他県の産廃事案等に引き続き対応中）（出版など）「簡単ガイド廃棄物処理法直近改正早わかり」（06年日本環境衛生センター執筆協力）、「廃棄物処理法いつ出来た？この制度」（08年日本環境衛生センター共同執筆）「ここまでわかる！廃棄物処理法問題集」（10年産業環境管理協会 共同執筆）（委員など）04年～環境省環境調査研修所「産業廃棄物アカデミー」講師、03～07年環境省「今後の産業廃棄物行政のありかた研究会」委員。14年信州大学非常勤講師就任。

7月2日 木

3 産業界・排出事業者

1 限目講義
10:30~11:50

産業界からみた産業廃棄物処理

廃棄物・リサイクル問題における経団連の取組や考え方等について講義。主に、排出事業者・動脈産業の立場から、経団連環境自主行動計画や規制改革等の考え方を説明。



担当講師

岩間 芳仁 〈(一社)日本経済団体連合会 環境本部長〉

81年3月 東京大学経済学部卒、同年4月 経団連に入局。産業本部情報・新産業グループ長などを経て、02年から米国MIT国際問題研究センター(CIS)客員研究員。03年 経団連経済本部経済法制グループ長。07年4月 産業第三部長、自然保護協議会事務局長。09年4月 環境本部長。

2 限目講義
13:10~14:30

リコーグループの廃棄物処理業者監査と安全・安心のためのセルフチェック

リコーグループでは、産廃情報ネットの公開情報も活用しながら独自の処理業者監査制度を運用している。監査制度は06年から開始し、14年末で1200回以上を数えている。また、09年から管理状態の優良な処理業者への認定を開始した。講義では、①リコーグループの監査制度の仕組み ②排出者視点の安心・安全な処理委託を確認するためのポイント③電機・電子4団体に作成した現地確認チェックリストを用い、安全・安心のためのセルフチェックについて解説する。



担当講師

稲田 俊生 〈(株)リコー 環境推進本部環境推進室プロセスグループ スペシャリスト〉

85年東京農工大学工学部応用物理学学科卒業。同年(株)リコー入社、研究開発部門勤務。環境測定部門を経て現在に至る。前 電機・電子4団体(※)事業所関連廃棄物・リサイクル対策専門委員会委員。

※電機・電子4団体: (一社)日本電機工業会、(一社)電子情報技術産業協会、(一社)ビジネス機械・情報システム産業協会、(一社)情報通信ネットワーク産業協会。

3 限目講義
14:50~16:10

持続可能な社会を目指して スーパーマーケットの3Rの取組

現在のことだけでなく未来の未来に向かって地球環境を壊さずに、人間や地球の生き物が共存していく社会を構築していくこと。この未来に続く仕組が持続可能な社会です。スーパーが持続可能な社会を目指し、持続可能な企業になることを目標に実践している環境活動についてお話しします。この環境活動には、廃棄物の運搬や適正処理、リサイクル等に関わる事業者との協働が不可欠です。この協働についてもお話しします。



担当講師

百瀬 則子 〈ユニーグループ・ホールディングス(株) グループ業務本部 グループ環境社会貢献部 部長〉

80年4月ユニー(株)入社、96年5月中京本部東浦店副店長、03年2月環境部長、同年日本チェーンストア協会環境委員、05年10月農林水産省 食料・農業・農村政策審議会委員、07年環境社会貢献部部長、13年ユニーグループ・ホールディングス(株)環境社会貢献部長、14年同執行役員就任。農水省 食料・農業・農村政策審議会専門委員(食品リサイクル小委員会)、環境省 中央環境審議会専門委員(食品リサイクル)、経済産業省産業構造審議会環境部会廃棄物・リサイクル小委員会委員など委員多数歴任。

7月16日 木 ~ 17日 金

夏季合宿研修【アジュール竹芝】

16日 13:00集合 17日 17:00解散

① 廃棄物処理経営におけるCSRの取組

担当講師

加山 順一郎 〈全国産業廃棄物連合会 青年部協議会 会長〉

② 合宿研修～中長期ビジョンの策定と経営戦略の立案【グループ討議】

経営目的・ビジョン、企業ドメインの策定、競争優位性とコアコンピタンス、事業シナジーと新規事業の資源展開、既存事業の資源展開等に関する講義、及び事例研究のグループ討議を通じて、自社の中長期ビジョンの策定と経営戦略の立案について学ぶ。

協力

加山 順一郎 〈全国産業廃棄物連合会 青年部協議会 会長〉

吉田 隆太 〈(株)ミスター・エム 取締役〉

8月6日 木

4 コンプライアンス

1 限目講義

10:30～11:50

廃棄物処理法遵守の心得

廃棄物処理法の趣旨、遵守の必要性、「行政処分の指針」、事例を中心とした欠格要件などについて廃棄物処理法を体系的に講義。

担当講師

鈴木 道夫 〈橋元総合法律事務所 弁護士〉

87年3月中央大学法学部法律学科卒業。88年11月司法試験合格。89年4月最高裁判所司法研修所司法修習生(第43期)。91年4月弁護士登録(東京弁護士会所属)、02年4月東京弁護士会常議員。12年4月最高裁判所司法研修所民事弁護教官。03年12月環境省アドバイザー(「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」に基づく実施計画案の審査に関する委嘱)、04年4月産業廃棄物適正処理推進センター運営協議会委員長。

2 限目講義

13:10～14:30

リスクマネジメント

廃棄物処理業の鍵となる信頼確保のため、コンプライアンスと環境リスクにおけるコミュニケーション能力の手法、手順について、事例を参考に講義。

担当講師

佐藤 泉 〈佐藤泉法律事務所 弁護士〉

第一東京弁護士会所属。主な業務：環境問題知的財産権、PL問題等に関する訴訟、法律相談。日本弁護士連合会：公害対策・環境保全委員会委員(化学物質部会)。第一東京弁護士会：環境保全対策委員会委員。

3 限目講義

14:50～16:10

リスクマネジメント【グループ討議】

担当講師

長岡 文明 〈BUN環境課題研修事務所 主宰〉 佐藤 泉 〈佐藤泉法律事務所 弁護士〉

80年山形県技術吏員として入庁。09年文化環境部循環型社会推進課課長補佐を退職。03年より環境省「今後の産廃行政研究会」委員、12年より環境省「PCB廃棄物の適正保管・早期処理の推進に関する調査検討委員会」委員、05年より環境省環境調査研修所講師、(公財)日本産業廃棄物処理振興センター講習会テキスト編集委員を務める。著書に、「土日で入門、廃棄物処理法」(日環センター)など、共著に「ごみハンドブック」(丸善)などがある。

8月27日 木

5 産業廃棄物処理業の経営 I

1 限目講義
10:30～11:50

総合環境企業を目指すタケエイグループの事業展開

建廃からスタートした同社は、処理品目の拡大・エリアの拡大に取り組むほか、再生可能エネルギー事業にも積極的に進出意向。同社会長より、新規事業開発、協業・業務提携・M&A等のグループ連携、地域との共生、海外展開等、今後の事業展開や課題、次世代への期待等について講義。

担当講師

三本 守 〈(株)タケエイ 代表取締役会長〉

68年個人企業として建設廃棄物の収集・運搬・処理を手がけ始める。77年武栄建設興業(株)を設立、取締役就任。83年代表取締役就任。88年(株)タケエイに社名変更。10年代表取締役会長就任。(公社)全国産業廃棄物連合会理事、(一社)千葉県産業廃棄物協会理事、環境省・国土交通省の各種委員会委員など、委員多数歴任。



2 限目講義
13:10～14:30

魅力あるリーダーとは

魅力あるリーダーとは、部下の立場を理解・支援することはもちろんのこと、会社をよくするためにはという経営者の視点も持って行動することが必要だと考えます。基本的な考え方はもちろんの事、ワークを交えて社内では気づいていない自分の長所や短所にも目を向け、魅力あるリーダーを目指して頂きます。また、学生時代からサークル等のリーダーとして、100以上の部下指導を経験したからこそその失敗談や苦労話、経験談なども交えてお話させて頂きます。

担当講師

加藤 宣行 〈加藤商事(株) 代表取締役〉

67年東京生まれ。91年東海大学法学部法律学科卒業。同年加藤商事株式会社入社。03年代表取締役就任。積極的に新卒採用を行い組織力の強化を図る。09年(社)全国産業廃棄物連合会・青年部協議会会長就任。CO₂マイナスプロジェクトを立ち上げ、青年部のみならず業界団体の知名度アップ及び組織力強化に尽力。



3 限目講義
14:50～16:10

処理業界における経営拡大の取組

時代の変化や事業環境の変化に伴い、鉄スクラップのみならず、様々な資源の高度リサイクルへと急速に拡大・変貌する同社の経営理念・行動・手法等について講義。

担当講師

伊藤 清 〈スズツホールディングス(株) 代表取締役社長〉

1968年中田屋(株)入社。1987年フェニックスメタル(株)代表取締役社長、2007年中田屋(株)代表取締役社長、2013年スズツホールディングス(株)代表取締役社長。



9月10日 木

6 産業廃棄物処理業の経営 II

1 限目講義
10:30~11:50

当社の社員採用・育成・社員満足向上(ES)の取り組みと地域活動(CSR)について

近年の少子高齢化等により、従業員の確保が難しくなっています。また、既存社員についても、すぐに退職してしまっはなんにもなりません。当社では10年以上前から新卒採用を行い、様々な研修をはじめ社員教育に力を入れています。また、“お褒めの言葉表彰”に代表されるような従業員をやる気にさせる表彰制度があります。このような活動や地域でのCSR活動について、当社の事例を説明いたします。

担当講師

尾崎 俊也 〈アースサポート(株) 代表取締役社長〉

平成4年に三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)に入社。その後退職して米国ロチェスター大学経営大学院でMBAを取得。卒業後の平成8年6月にアースサポート株式会社に入社し、平成14年11月に社長に就任。業界活動では平成23年7月から2年間、全国産業廃棄物連合会青年部会長を務め、現在は平成26年から(公社)全国産業廃棄物連合会の海外担当理事。また、地域活動としてプロバスケットボールbjリーグ所属の島根スサノオマジック代表取締役も兼務している。

2 限目講義
13:10~14:30

廃棄物処理業における環境戦略

近年、持続可能な廃棄物処理が求められ、廃棄物処理・リサイクルが社会の様々な面で重要な位置付けを示すようになっていきます。社会環境の変化に対応するノウハウは国内だけでなく、国外でも活用することが望まれ、更なる動脈産業と静脈産業が一体となる地球規模での循環型社会形成へ向けてビジネスモデル作りを敷延します。

担当講師

川添 克子 〈(株)Green prop 代表取締役〉

株式会社Green prop代表取締役、株式会社ATGREEN代表取締役、Sustaina green株式会社代表取締役 <表彰歴>2011年10月福岡県男女共同参画 女性の先駆的活動部門表彰受賞、2012年10月環境大臣表彰受賞 3R推進部門 <協会・団体等役員就任歴>公益社団法人福岡県産業廃棄物協会理事、一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会理事、環境カウンセラー、公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター委託講師。

3 限目講義
14:50~16:10

リヴァックスグループの取組

大きく様変わりする廃棄物処理ビジネス環境に対応すべく、ステークホルダーへの積極的な情報開示と処理事業者の社会的責任を認識した取組(事業戦略)の経年変化を、事例等を交えて講義します。

担当講師

赤澤 健一 〈リヴァックスホールディングス(株) 代表取締役〉

61年兵庫県生まれ。同志社大学大学院博士前期課程修了。85年大栄サービス(現リヴァックス)入社。04年代表取締役社長就任。14年リヴァックス代表取締役社長辞任。(公社)大阪府産業廃棄物協会 理事。主な著書に『遺品整理業、始めました。』(2014年出版文化社)。

9月11日 金

施設見学



10月1日 木

7 廃棄物技術

1 限目講義
10:30~11:50



産業廃棄物技術<概論>

廃棄物処理施設建設と共に、処理事業会社の経営を通じて、循環型社会の一翼を担うプラントメーカーにおける事業会社の設立企画、運営管理業務の経験に基づき、経営と施設管理の視点から焼却処理を中心に周辺技術および運営管理等に関して講義。

担当講師

赤石 隆宏 〈(株)タクマ 営業統轄本部事業管理本部 業務2部1課課長〉

98年北海道大学大学院工学研究科衛生工学専攻修了。同年に(株)タクマ入社以来、産業廃棄物に関連する業務(施設計画設計、営業、事業会社経営管理等)に従事し、現在はバイオマスボイラ案件にも携わる。事業会社役員兼務。技術士(総合技術監理、衛生工学)。廃棄物関連の講義歴多数。

2 限目講義
13:10~14:30



産業廃棄物技術<最終処分>

産業廃棄物処分技術のわが国の第一人者である同教授から、最新の最終処分技術とその動向、最終処分の視点から処理事業経営者として踏まえておくべき事項の講義。

担当講師

樋口 壮太郎 〈福岡大学大学院 工学研究科 教授〉

72年福岡大学工学部土木工学科卒業。同年日本技術開発(株)入社。97年九州大学大学院博士後期課程修了。01年福岡大学工学部教授着任。02年より同大学大学院工学研究科資源循環・環境工学専攻、地域環境専修教授兼任、資源循環・環境制御システム研究所所長、現在に至る。審議会等委員多数歴任。

3 限目講義
14:50~16:10



産廃処理・資源化技術の新潮流

廃棄物処理技術の評価検証や処理施設性能指針の策定および産業廃棄物処理施設定期検査ガイドライン策定委員会に携わった同氏から、産業廃棄物の処理・資源化に係る技術・運営管理、廃棄物エネルギー回収向上手法について国際的な動向を踏まえて、新潮流を講義。

担当講師

藤吉 秀昭 〈(一財)日本環境衛生センター常務理事 企画部担当〉

72年九州大学農学部農芸化学科卒業。74年(一財)日本環境衛生センター入所。現在、常務理事。ごみ処理施設建設に係る計画設計等、ごみ焼却施設のダイオキシン対策、建設指導業務等に係わる。専門分野は「廃棄物工学」。工学博士、技術士(衛生工学部門)。国の委員、地方自治体の委員会委員を多数務める。著書:循環型社会形成に向けたごみ焼却施設改良・改造技術に関する手引書(JESC)廃棄物処理・リサイクル安全ハンドブック(丸善出版)等多数。

10月2日 金

8 施設計画・財務

1 限目講義
10:30~11:50

森林整備事業から発電事業までの事業展開

林業での事業展開だけでは、事業性が難しい昨今、森林整備すら施工する予算もなく森林放置状態の山林が急増している。植林から成木（伐期）を迎えるまでの循環をどのように確立するかを植林事業から発電事業までの事業展開を通じて解決していくかを講義する。

担当講師 齋藤 大輔 〈(株)ノーリン 専務取締役〉

95年個人企業の齋藤農林として林業の森林整備事業を手掛け始める。98年(有) 齋藤農林を設立。取締役就任。04年(株) ノーリンに社名変更。産業廃棄物処分業木くずを取得し、木材のリサイクル業務も開始する。10年(株) グリーン発電会津を設立。5000kw級のバイオマス発電事業に着手する。12年3月完成。同年7月操業開始。

2 限目講義
13:10~14:30

産業廃棄物処理事業の財務

財務諸表の読み方・解き方の基本を概説し、産廃業の収集運搬・中間処理・最終処分毎に、財務諸表からみた特徴や平均像について紹介し、事業改善のポイント等について講義。

担当講師 大城 清也 〈大城公認会計士・税理士事務所 公認会計士・税理士〉

85年早稲田大学社会科学部卒業。98年(株) 共栄経営研究所入社。98年公認会計士登録、大城公認会計士・税理士事務所設立。02年(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団 債務保証事業審査委員(財務担当) 就任。自動車リサイクル法の制定に深くコミットするなど、環境政策における税制上の諸課題について、多方面にアドバイスを行っている。

3 限目講義
14:50~16:10

産廃処理施設建設資金調達時の留意点

産廃処理施設建設資金調達に際し、貸し手である銀行サイドの目線、チェックポイントと借り手である処理業者サイドの対応策、留意点等につき、リサイクル施設、焼却炉、処分場のケースに基づき説明。

担当講師 山下 新介 〈(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団業務部長〉

79年東京大学経済学部卒業。同年三井銀行(現三井住友銀行) 入行。98年大阪北支店副支店長。00年新宿新都心支店長。大企業、中堅・中小企業向け各担当審査部に延10年半。10年(公財) 産業廃棄物処理事業振興財団業務部長に就任、現在に至る。

10月22日 木 ~ 23日 金

秋季合宿研修 [ハートピア熱海]

22日 12:45集合 23日 17:00解散

事例研究

担当講師 近藤 亮介 〈Bioフォレストेशन(株) 代表取締役〉

合宿研修 グループ討議ガイダンス

担当講師 青山 俊介 〈副塾長・(株)エックス都市研究所 取締役特別顧問〉

グループ討議(テーマ別)

11月5日 木

9 ワークショップ

1 限目講義
10:30~11:50



① 廃棄物処理業における事故防止に関する取組み

全ての産業において労働災害撲滅は、永久的に取り組まなければならない最優先課題である。経営者として労働安全の組織づくりを積極的に取り組むことにより、企業存続のための礎を築き、経営者としての責任を果たすことの重要性を、経験した事故事例などを基にお話しさせていただきます。

担当講師

矢野 智孝 〈(株)吉勝重建 代表取締役〉

97年福井工業大学建設工学科卒業後、建設工事現場監督を実務経験。01年株式会社吉勝重建入社。09年代表取締役就任。全国産業廃棄物連合会・青年部協議会、副会長・統括幹事等歴任。10年福井県建物解体業協会会長就任。全国解体工事業団体連合会にて技術安全委員会の委員として解体工事施工技術講習の講師を務める。

グループ討議
13:00~16:10
発表
16:30~17:30

② グループ討議 (収益力拡大、事故防止に関する取組み・教育等)

③ 発表 (1グループ10分・質疑込み)

11月19日 木

10 処理業経営者に期待すること

1 限目講義
10:30~11:50



廃棄物処理業における低炭素の取組最前線

産業廃棄物企業2000社が参加したCO₂マイナスプロジェクトや最新の低炭素社会実現に向けての様々な取組についてご説明致します。本講では、CSRのトレンドや廃棄物処理事業者の海外展開についての最新の動向について詳しく説明致します。

担当講師

中西 武志 〈カーボンフリーコンサルティング(株) 代表取締役〉

東京大学大学院経済学研究科中退。青山学院大学国際経営学修士。早稲田大学商学部卒。シティバンクN.A.金融商品開発部部長、ゴールドマンサックス証券バイスプレジデント、クレディスイス証券金融商品開発部部長等を経て地球温暖化防止の為に立ち上がりカーボンフリーコンサルティング(株)設立。その他 金融最先端の手法に関する著書・論文等多数。気候変動問題を解決するために、カーボンオフセットを始め様々な手法やプロジェクトを構築。カーボンオフセットに関しては取扱い件数が最大の企業に成長させた実績がある。WFP(国連世界食糧計画)との世界初の取組となるFOOD FOR CARBONFREE PLANの実施や、我が国のすぐれた廃棄物処理技術の海外展開事業支援など、環境問題に取り組む日本有数の社会企業家である。

2 限目講義
13:10~14:30



循環型社会の構築とわが社の事業展開

廃棄物分野で先駆的に事業拡大に取組む同社社長より、これまでの事業戦略と事業拡大の変遷、国内外の動向や業界の動きを見据えた近未来への戦略、業界の課題等について講義。

担当講師

石井 邦夫 〈(株)市川環境エンジニアリング 代表取締役社長〉

69年早稲田大学教育学部卒業後、父の営む会社に就職。74年(株)市川環境エンジニアリング代表取締役社長就任。89年から(一社)千葉県産業廃棄物協会会長。10年(公社)全国産業廃棄物連合会会長就任。このほか市川商工会議所会頭、千葉県経営者協会常任理事など、役職多数。

3限目講義
14:50～16:10



低炭素・省エネ社会に向けた廃棄物処理事業

エネルギー分野の各種審議会等の主要メンバーとして活躍する同氏から、最近のエネルギー政策や新エネルギーの動向を踏まえて、廃棄物処理経営者が事業を推進する上で求められる視点について講義。

担当講師

柏木 孝夫 〈東京工業大学 特命教授 先進エネルギー国際研究センター長 工学博士〉

70年東京工業大学工学部卒業、79年工学博士（東京工業大学）、88年東京農工大学教授、07年東京工業大学大学院理工学研究科教授、10年（一社）低炭素投資促進機構理事長、11年9月（一財）コージェ財団理事長、11年9月（一財）新エネルギー導入促進協議会代表理事、12年より現職。経済産業省 省エネルギー・新エネルギー分科会会長、内閣府グリーンイノベーション戦略協議会座長ほか各種政府関連委員。（一社）日本エネルギー学会会長（21代）、Stanford大学Global Energy & Climate Project, Advisory Board Member等歴任。

卒塾レポート提出

必修



卒塾面談（塾長・副塾長）

必修

（日程は個別に設定）



卒塾式 12月4日（金） 16:00～17:00

産業廃棄物処理業 経営塾 OB 会

経営塾 OB 会とは…

卒塾生間の連携とネットワークの強化

産業廃棄物処理業の成長・発展のための
行政、排出事業者等への提案・情報発信

運営／活動内容

経営塾OB会は自主的かつ独立した運営を行っており、各卒塾期代表からなる幹事会において年間活動計画を立案し、運営しています。主な活動としては、施設・現場見学会、企業経営者等による講演会のほか、全国の卒塾生のネットワークを活かして産廃業界のさらなる発展を目指す地域別ワークショップ活動や、関係省庁・団体への提言等の情報発信を行っています。

主な年間行事

- 定時総会（年1回）
- 施設見学会（年1回）
- 地域別ワークショップ活動（年数回）
- 成果発表会・賀詞交換会（年1回）
- 勉強会（年1回）等

受講要項

日 程

平成27年6月～平成27年11月(6ヵ月)

講 義 数

28講義+合宿研修(2回)+施設見学会

講 義 時 間

通常の講義の場合

1限目 10時30分～11時50分

2限目 13時10分～14時30分

3限目 14時50分～16時10分

会場（講義&合宿研修）

講 義 会 場

ECOZZERIA(エコッツェリア)
東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸の内ビルディング10階
TEL.03-6266-9400(施設代表)



講義会場 ECOZZERIA(エコッツェリア)

合 宿 研 修



夏季合宿研修【アジュール竹芝】
東京都港区海岸1-11-2
TEL.03-3437-2011(代表)



秋季合宿研修【ハートピア熱海】
静岡県熱海市伊豆山717-18
TEL.0557-80-4050(代表)

募集要項

応募資格

以下のいずれかに該当する者であること。また、①及び②に該当する者が勤務する企業においては、過去5ヶ年にわたって廃棄物処理法などの法令違反に問われていないこと。

- ① 優良な産業廃棄物処理事業者としての評価を得ている企業の経営者または経営の一翼を担っている者。
- ② 優良な産業廃棄物処理事業者として評価を得ている企業の技術面での統括管理者であり、産業廃棄物処理に関する技術資格を有する者。
- ③ 産業廃棄物処理業に準ずる豊富な経験を有し、今後、産業廃棄物処理事業への本格参画を図ろうとしている企業(素材メーカー、処理施設メーカーなど)において、①・②の条件に対応した要件を満たす者。
- ④ その他、本塾塾生としての受講を認める相当の理由があるとして塾長が認めた者。

募集人数

35名

受講料

54万円(税込)

申し込み方法

提出書類

入塾願書(写真を貼付したもの)と顔写真1枚(4cm×3cm)を送付願います。

応募締切

定員に達し次第、締切といたします。
事務処理の都合上、平成27年5月15日(金)までにお申し込みくださいますようお願いいたします。

選考方法

当財団の資格審査により選考いたします。

支払方法

請求書を送付いたします。

(全額前納とし、納入後は事情によらず原則として返金はいたしません)

入塾までの流れ

入塾願書提出

下記の書類を事務局までお送りください。

1. 入塾願書(写真を貼付したもの)
2. 顔写真1枚(4cm×3cm)



入塾審査結果書を送付いたします。



受講料の支払い

受講料を指定口座にご入金ください。なお、振り込み手数料は貴社にてご負担ください。



入塾式の案内書を送付いたします。

お問い合わせ

産業廃棄物処理業経営塾・事務局
(公財)産業廃棄物処理事業振興財団

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町2丁目6-1

堀内ビルディング3階

TEL.03-3526-0155 FAX.03-3526-0156

担当/経営塾担当 改田、本多

E-mail : jyuku@sanpainet.or.jp



- JR神田駅 東口より徒歩約1分
- 東京メトロ銀座線 神田駅(1番出口)より徒歩約3分

 **公益財団法人 産業廃棄物処理事業振興財団**

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2丁目6-1 堀内ビルディング3階

Tel.03(3526)0155 Fax.03(3526)0156

URL <http://www.sanpainet.or.jp>